

## 令和4年第12回加西市教育委員会会議録

- 1 開会日時 令和4年12月19日(月) 13時58分
- 2 閉会日時 同日 15時36分
- 3 開催場所 市役所 5階大会議室
- 4 出席者 教 育 長 民 輪 惠  
委 員 沼 澤 郁 美  
委 員 楠 田 初 美  
委 員 中 川 和 之  
委 員 深 田 英 世

- 5 上記出席者及び傍聴人を除き、会議に出席した者の氏名

教育部長	千 石 剛
教育総務課長兼給食係長	伊 藤 勝
学校教育課長	安 富 重 則
こども未来課長	丸 山 常 基
教育委員会課長(未来型児童館担当)	
	井 上 英 文
生涯学習課長兼市史文化財係長	北 島 悦 乃
総合教育センター所長	工 藤 憲 人
図書館長	伊 藤 陽 子
教育総務課長補佐兼総務係長	松 田 ちあき

地方教育行政組織及び運営に関する法律第14条第3項に定める定足数に達していることを確認し、議事に移りました。

- 6 付議事項

なし

- 7 議題となった動議を提出した者の氏名

なし

- 8 質問及び討議の内容

なし

## 9 議決事項

なし

## 10 報告事項

### 教育長

11月16日の前定例委員会以降について報告します。

翌17日には代表区長会に出席いたしました。

その翌18日、北条中学校にて中学校出前講座ビブリオトークがありました。これは親和女子大の笹倉教授が続けてくださっている読書プロジェクトで、中学生の生徒各人が1冊を選び、独自の視点と感性でテーマや読後感を発表するものです。本の選び方やテーマの捉え方が、いかにも現代を生きている子どもたちという感じで、相当本読みのつもりである私でも聞いたこともないような本がいっぱいありました。読書によって育まれる感受性の深まりが伝わってくるビブリオトークであり、大変感銘を受けました。教育委員さんも機会がありましたら、一度参加してやってください。

11月23日には、第2回STEAMフェスティバルとなる「ONE DAY STEAM」がございました。教育委員会はもちろんのこと、首長部局とも協同して様々な企画が展開されました。さすがに第2回目という工夫と広がりがありうれしく思いました。昨年、加西市と兵庫教育大学はSTEAM教育の連携協定を結び、それが1年たって見事に芽吹き、兵教大から20名ほどの学生さんたちが来て運営をサポートしてくれました。何か若い人同士で会を運営しているという感じが会場をワクワクさせていました。一方、教育学部の学生さんたちにとっては、コロナでフィールドワークができない状況もあったので、今回のイベントは子どもたちと直接触れ合うことのできるよい体験の場となりました。これこそまさにwin-winの関係でSTEAMの実践ができていると実感し、私のほうがわくわくどきどきするような催しでした。皆さんお疲れさまでございました。

11月24日には、朝からお米寄贈の出発式というのがございました。市内でお米作りに励まれているAFKアスリートファーマーズ加西のメンバーさんたちが、毎年この時期にこども園に新米を届けてくださっております。毎年、四つぐらいのこども園に寄贈して下さっており、それに感謝をして出席させていただいています。同日午後には、子ども・子育て会議が開催されました。今回のメインテーマは未来型児童館の機能についてで、皆さん大変積極的に話し合っていました。

11月25日には、泉中学校で「先輩に学ぶ会」というタイトルのPTA講演会がございました。私もなかなか面白いテーマだと思い、参加させてもらいました。講演された泉中学校卒業生の中田樹さんは、大学卒業後にフランスに渡りフランス語と農業を学ばれた後、現在は加西市ではなく、豊岡市地域おこし協力隊として未来の農業のカタ

チをデザインしようとされています。中田さんは「本気度、足りてる？」とか、『『どうせ無理』をやめようよ』といった大変生き生きした前向きな言葉を中学生に語りかけていました。中学生たちは28歳という比較的年齢の近いお兄さんという感じの先輩の話聞き、身近に刺激を受けたようです。最後、質疑応答では随分大勢の生徒たちが質問をしていました。中学生たちの表情が生き生きとしていていいことだと思いました。私は加西市で未来の農業のカタチもやったださったらと思いましたが、豊岡市というのはお母さんのご実家のほうだそうです。

そして、11月26日には宇仁っ子フェスティバル2022がございました。今年は各学年がブース形式で発表の場を設けており、スローガンは「再発見—地域の魅力と絆」というタイトルでした。各学年とも子どもたちは一生懸命に取り組んでおりました。

うれしいエピソードになりますが、ご存じのとおり宇仁小学校は加西市内で一番小規模の学校です。その宇仁小学校へ今年秋、神戸から5年生の兄と3年生の妹が転入してきてくれました。会場で会いましたので、私が「どう？友だちできた？」と聞くと、「うん、友だちすぐにできた。楽しい」と言って、兄妹両方とも大変楽しそうにしてくれていて「よかったな」と思いました。二人のお父さんは多分ITの仕事をやさっていて、お母さんはまだ1歳が一番末のお嬢ちゃんをだっこしていましたが、その末娘さんの誕生を機に田舎暮らしをしようと決意されたのだと、漏れ聞きました。そういう新しい風が入ってくることは、やはりみんなを何となく生き生きそわそわさせている感じがあっていいなと思いました。

そして、6年生のブースのテーマは何と「加西市の子育て支援」でした。それも「教育長、今から発表いたしますのでおいでください」という案内がきちんとございまして、私は「わー、何を発表するのかしら」と思ってブースに行ってみると、加西市の子育て支援の五つの無償化なども含めて、まるでミニ市長がいるのようになっていて、まるで生き生きと発表していました。ただ、そのときに聞きに来ていたおじいちゃん、おばあちゃんの方が、五つの無償化について「すごいことをしているんですね。知りませんでした」と言われていたのです。私としては随分インフォメーションしているつもりでしたが、「そうか、まだそういう状況か」と思いました。というのも、市民の皆さんが分かっておられないのでは、市外の皆さんにも情報は届きませんから、もう少しきちんと粘り強く広報していかなければいけないと思いました。

その6年生のブースではアンケートを取っていて、その結果が出たら教育長室に報告に来てくれることになりました。いつでもお待ちしているので来てくださいとあって、とても楽しみにしております。

同日その後に、ふるさと伝統芸能の集いと職員採用試験面接がありました。

11月27日には、この日もダブルで行事があり、加西市美術家協会会員がイヤーエンドの反省会をされていたのでご挨拶を兼ねて伺いました。その後、中央ふれあいまつりが市民会館でありました。

翌 28 日には、加古川で兵庫県公立小中学校等教職員永年勤続表彰式があり、教師歴 20 年の中堅の先生方への顕彰がされました。例えば大学の教授には 15 年や 20 年という一定の年数を勤務すると、数カ月から 1 年、本来の職務から離れて自由に研修するサバティカル制度というものがあります。勤続 20 年の表彰をするのなら、義務教育でもそういうサバティカルのようなことができないのだろうかとは思いました、それを東播磨の教育長さんたちに提案してみました。すると、元学校の先生方ですので「我々はせいぜい二、三日休めるかどうかです」とおっしゃいます。私が「もうちょっとせめて 1 週間とか」と言うと、「そんなに休んだらほかの人に迷惑がかかります」と。やはり人間というのは、何歳になっても新しい知識を入れたり、体験をしたりしないと、リフレッシュもできないし、次の段階に行く発想もできないのではないかと思います。「義務教育にサバティカルを」という運動をしようかな、と今思ったりしているぐらいです。そういった新しい視点で研究したり学んだりする時間が、先生たちにも与えられるべきだと強く思いました。

29 日は 12 月議会本会議第 1 日目でした。

そして、30 日には定例校長会がありました。その後、播磨東地区教育委員会連合会理事會合同研修会が稲美町で行われました。この日は水平社創立 100 周年ということで、研修として差別と人権の講演がありました。この全国水平社は 100 年前に「人の世に熱あれ、人間に光あれ」という有名なキャッチフレーズで創立を高らかに宣言され、今年創立 100 周年を迎えられたということで、人権とは何かという原点に触れる思いがしました。

12 月 2 日には「公民館・オーктаウン加西のあり方検討委員会」が開かれました。

その後の夕方には、連合北播磨の先生方と「教育網の目要請」という話合いがあり、毎年様々な要望を市長と教育長に持っていらっしやいます。しかしながら、去年同様、そのご要望のほとんどはごもつともなものが本当に多く、一緒に加西市の教育をよくしていくよう頑張りましょうという姿勢を確認し、非常に和やかな雰囲気で行いました。

あと、同日 19 時から「安全・安心のまちづくり市民大会」が、市民会館文化ホールで行われ、このときは暴力団対策のお話がされ、なかなかユニークな講演でした。

そして、12 月 3 日には、加西市健康福祉会館に二十人弱の市内の中高生が来て、未来型児童館ワークショップを開いてくれました。市内の中高生の要望としては、どこでも割合共通しているように思いますが、加西市には防音設備のある楽器の練習室や自由に体を動かせるダンススタジオがないとか、ある子は映画館がないのでそういうものが欲しいと言っていました。それと同時に、静かに自習のできる部屋と友だち同士でわいわい教え合いながら勉強できる部屋がそれぞれに欲しいとか、野菜などを育てる実験ファームみたいなのがあったらいいのにといったとてもいい意見がいろいろと出ていました。なかなか加西市の未来型児童館に映画館を造るといふわけにはいか

ないと思いますけど、今は映画館と言っても小さいビデオルームのような映画館も誕生しています。ですので、この未来型児童館は複合施設を目指すのですから、例えば小さい部屋をシネマの部屋にするのもいいんじゃないかなと私は思ったりして、夢はいろいろいっぱいふくらみます。こうして子どもたちが何を望んでいるかという意見を聞くのは大切なことですので、大事にしたいと思います。

12月4日には、播州加西あばれ太鼓30周年記念公演が文化ホールでございました。

そして12月6日には、年末ということで、商工会議所からの要望を市長、副市長、教育長の三役で商工会議所の面々からうかがい、懇談をさせていただきました。私の印象では、お三方とも今、加西市がSDGs未来都市に指定されたり、脱二酸化炭素やSTEAM教育など、先進的なことに挑戦しながら新しいまちづくりへと踏み出していること、また商工の活性化も含めて大変いいことだと評価して受け止めてくださっているという雰囲気を強く感じました。

それから、12月8日は市議会本会議第2日目、9日は3日目でした。教育委員会に対して多々質問がありましたが、大体は教育部長が答えてくれました。井上議員から学校再編案とこれからの方針について教育長はどう考えているのかというご質問があり、私はそれにお答えいたしました。詳細はまた動画にてご確認ください。

それから、12月12日には、善意の表彰の審議委員会が庁議室で行われました。それから、職員採用試験委員会や当初予算財政ヒアリングもございました。12月に入りますと、年末に向けて大変たくさんいろいろな会議があり、皆さんも同じだと思いますが、私は結構くたくたです。

この前、加藤登紀子さんが加西市で55周年記念のコンサートをしてくださいましたが、それをご縁に女性同士の新春対談をしたらどうかという広報の企画が持ち上がりました。私個人は以前から登紀子さんのことを存じ上げていたものですから、12月13日に東京千駄ヶ谷のオフィスに行って対談をさせていただきました。そのとき彼女が言われていたのは、夫の藤本さんが亡くなられてもう20年になるのですが、その当時、藤本さんは千葉県鴨川で有機農業を始められていました。その有機農業は20年たってようやく市民権を得て、むしろそちらのほうがこれから目指すべき農業になってきましたねというお話をした。また、ウクライナ関連では、彼女はチェルノブイリ原発事故の後、ウクライナに行かれたそうで、そのとき出会った子どもたちの話題にもなり、大変充実した2時間でした。またお時間がございましたら、広報の新年号に掲載予定ですので、お読みください。

12月14日には総務委員会がありましたが、今回は割合短い時間で終わりました。

そして、12月15日には教育委員会賞表彰があり、2名を表彰しました。たまたま両方とも北条小学校の4年生で、別々のクラスと言っていました。

うれしいことなので少し披露させていただきますと、一人目の三宅晃世君は「2022年ものづくり子ども絵画展」で優秀賞神戸市長賞を受賞され、絵のテーマは「いろん

な道具を使って踏み台を作る先生」というタイトルです。ある意味で抽象的な絵ですが、きっと子どもの目にはそう見えるのでしょうか。なぜかといえば、対象となる物を正確に写生するという絵画もちろんありますが、この作品はそうではなく、心の目に映ったように、つまり先生がものづくりをしていると、手がすごく重要で大きく見えるというように、心の目に見える姿を大胆に描いたものでした。彼にも言ったのですが、私にはこれはもうピカソのキュビズムとか、ミロの絵を思わせる面白い作品でした。

もう一人は芝先緑之進君で、普通なら昼間の景色を描くと思うのですが、彼が描いたのは何と夜の北条町駅です。その絵が JR 加古川線・神戸電鉄粟生線・北条鉄道「列車内鉄道絵画展」で大賞に選ばれました。この絵は色彩感覚がとても独特で、発想もいわゆる常識に縛られずに、わざわざ夜を描くというオリジナリティが感じられました。私が「すごいね、すばらしいね。何で夜の駅なの。」と聞きましたら、何と「きれいやから」と、いかにも小学4年生らしい素直な答えで、私は思わずほほ笑みました。

次に、16日には、皆様もまだリアルに覚えていらっしゃると思いますが、渋滞でくたくたになった小牧市未来型児童館の視察がありました。早朝から出発し、帰りは夜8時を過ぎたと思います。ご参加くださった方々は本当にお疲れさまでございました。1年前にオープンした小牧市の児童館は商業施設ビルを改修したもので、加西市で言えば形式的にはアステアかさいをイメージさせるようなところでした。ところが、お隣に新設された図書館はグッドデザイン賞を受賞した本当にすてきな建物で、1階はとても開放的なイメージで、スタバもあり、大変いいところだと思いました。

実はビルの中に入っている未来型児童館であることは分かっていたので、建築物が未来的かということより、SDGs 未来都市計画の一環として子どもたちの夢への挑戦を応援する施設として、どのようにコンセプトを見える化しているのか、どのように実現しているのかということに大変関心がありました。また、遊びや体験を通じて、楽しみながら学びを見つけることのできる小牧市の子育て支援中核施設だと聞いていました。実際に行かせていただくと、例えばデジタルコンテンツを近隣の四つの大学と学官連携で作成されており、発想ややり方も大学生の若者の取組で面白いなと思いました。参考になることは様々多くありましたが、行って見せてもらいながら、こういう施設を創設するにはやはりオリジナリティが非常に重要だと私は思いました。

つまり加西市に置き換えれば、加西市ならではの歴史や風土を大切にできちんとした考え方に取り込みながら、かつ先進的な未来型ビジョンを構築することが必要ではなかろうかと思いました。そういうコンセプトは施設を先導していくリーダーや関係者たちが共有をして、加西市民として誇りを持って語れるキーワードを共有することこそが大事だと強く感じました。そして、それを実現するために、それぞれの持ち場で挑戦することによってこそ、児童館は単なる子どもを遊ばせる場所というだけでなく、加西っ子が未来の夢に向かう気づきの場になるのではなかろうかと思えます。

とくかく百聞は一見にしかずですので、今後の視察も含めて様々な議論をしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

#### 教育部長

12月議会はまだ終わっていないのですが、中間報告として議会の内容をご報告いたします。今議会では直接的ではありませんが、姫路市を中心とし加西市からも通学可能な夜間学校に関わる連携協定を締結する議案が一つ、それと補正予算が一つ、以上の2本が教育委員会関連の議案として提出されています。

まず、夜間中学についてですが、加西市は姫路市を中心とする連携中枢都市圏という連携協定を結んでいます。その連携協定の中で共にできる事業をピックアップさせていますが、今回姫路市に開設される夜間中学、あかつき中学校に加西市からも通学可能として連携協定を変更することについての議案です。これが議会で通れば、加西市民にも向けた夜間中学校の取組が進むということになります。

もう1本はこの12月の補正予算の議案ですが、予算で言う債務負担行為、つまり令和5年度に向けた予算の確保を約束していただくというような予算の整え方になります。これは特別支援学校の新たな通学バス導入のための予算で、今年度は接続期間として年度内予算は50万円でしたが、今回の債務負担行為として1,400万円の予算を要求しています。現在、特別支援学校ではバス型のスクールバスを使っていますが、障害者対応の改造あるいはノンステップという底面を低くする加工をした都合上、従来のバスより乗車定員が少し減ってしまいました。そのため、今年度生徒全員は乗せられないという状況になっており、新たにワンボックスタイプの中型車両を導入し、生徒の輸送を確保するため債務負担行為を起こしています。今の状況でも基本的に小中学生は全員バスに乗れています。高等部については、卒業後の社会進出や就労などを考慮し、基本的には自力通学というスタンスにしていますが、どうしても自力通学がかなわない生徒さんもおられます。そうした生徒さんへの手だてということで、バス輸送力の強化をしようとするものです。

次に、補正予算において幼稚園、こども園の関係で補正を計上しております。ご存じのとおり10月1日から行っているゼロから2歳児の無償化に伴い、定例教育委員会でもご議論があったように保育士の確保が非常に重要になっています。そのため保育士の確保策として200万円の予算計上をしています。これは就労一時金で、つまり加西市内のこども園に就職した職員や保育士へ就労一時金を支給するためです。併せて、国の補助事業として住宅確保対策という取組も行っております。これは家賃上限を5万2,000円とし、国が2分の1、市が4分の1、事業者が4分の1を負担するというもので、その上限以下であれば基本的に就労者は自己負担なく就職していただけるよう体制を整えようとするものです。

また、12月補正では公立こども園の修繕費を確保しています。これはゼロから2歳

児の受入れ床面積のキャパシティーを強化するため修繕です。現在、泉よつばこども園と加西こども園にある子育て支援室を修繕し、部屋の業態を変えます。また、ゼロから2歳児の保育受入れ人数を拡大するため、賀茂幼稚園では現状あるゼロから2歳児の保育室をゼロから1歳児の部屋に修繕し、2歳児については別の部屋に移ってもらいます。主立った補正予算は以上です。

質疑、つまり議案に対する議員からの質問では、全6名中2名が教育委員会関連の質問をされました。

また、一般質問においては主立ったテーマとして、未来型児童館の進捗状況について、4月に開所予定の2園を含めた小規模保育所の現状と受入れ状況や見込みについて、物価高騰による学校給食への影響について——要は給食材料費が高騰している中で給食の質の確保や地産地消の推進などの質問がされました。さらに、未来の学校構想における学校の統廃合について、ヤングケアラーについて、がん教育について、部活動の地域移行についても質問がされました。加えて、今回加西インター産業団地開発で発掘された中富条里遺跡に関連して、加西市の埋蔵文化財の状況や保管庫などの文化財の整理状況、その展示を含めた活用についても質問を受けております。この一般質問では全11議員のうち7名が教育委員会関連の質問をされています。このことから、前回と同様やはり教育関係については非常に関心と注目度が高い状況にありますので、事務局としても気を引き締めて臨んでまいりたいと考えております。

#### 教育委員からの意見や意見と教育部長の回答

- ・少し教えていただきたいのですが、普通のバスは定員45名程度が乗れると思いますが、特別支援学校のバスは改装後、何人まで乗れるのですか。

(回答) 申し上げたような改装の都合、定員26名のバスになっています。そのため、高等部の生徒さんが少し乗れないという状況が出てしまっていましたので、今回その生徒さんも乗車できるように令和5年度の事業として予算計上したものです。

- ・特別支援のバスというのは、椅子ものかせて広くされているわけですか。

(回答) そのようにしてあったり、車椅子で乗れるようにしたり、低床バスという歩道から大きな段差がなく乗り込めるというような改装がされています。

#### 教育総務課長兼給食係長

令和4年度教育委員会点検評価シートについて報告します。4月定例教育委員会後、点検評価について教育委員の皆様と協議をさせていただきました。その後、各課でいただいた意見を参考に評価の見直しをしました。10月に2名の点検評価委員の先生方に見直し後の評価シートを送り、11月末に先生方からご意見をいただいております。



堀内先生からは目標値の設定や語句についての指摘等がありました。押田先生からは、今もまだ事業の計画数と開催数が目標値とイコールのままの状態、脱却できていない等のご意見がありました。これを踏まえ、各課において評価の見直しをした結果、今回の点検評価シートとなっています。今後、例年のように5月定例教育委員会に向け点検評価の協議を行い、6月定例教育委員会にて承認をいただいた上で、最終、点検評価委員会に進める形にしています。現在のものは最終形ではなく、今後も点検評価の見直しを行い、確定したものに近づけていこうと思っております。現状としてこのように取りまとめていることをご報告させていただきます。

続いて、STEAMラボ整備状況について報告します。今年度補正予算で国のデジタル田園都市国家構想推進交付金を活用して進めてきたSTEAMラボについては、この12月26日をめどに全小中特別支援学校、3公民館、総合教育センターの計20か所で完成する予定で、1月以降活用していきます。通信機器の操作については、1月13日に善防公民館と泉小学校をリモートで実際につなぐ機会を設けており、ICT担当職員やICT支援員の方々と一緒に機器の操作説明会を開催する予定にしています。その後、2、3月と機器の操作に慣れていただいた上で、4月の本格実施に向けて進めていきたいと考えています。

#### 教育委員からの意見と教育総務課長兼給食係長の回答

- ・教育委員の提案かその他のところで要望というか、ご質問させていただこうかと思っていたのですが、今の点検評価シートの取組番号1番が幼小連携ということで、目標数値の指標の三つ目には、小学校の連携促進の充実に向けた交流活動や合同研修会等の回数が書かれています。令和2、3年は公立こども園5園掛ける2回で10回が実施されていますが、令和7年度に向けて公私こども園11園掛ける2回で、できるだけ私立も入れて行っていこうという幅を持った計画をしていただいております、ありがとうございます。

先日、私立こども園の代表の方から、できれば小学校に入るまでに私立こども園も学校訪問等をさせてほしいというご要望を聞きました。私立園も訪問させてほしいそうですが、なかなかそれが実行されていないというご意見いただきました。今はコロナの状況もあり、どうしても全ての方を受け入れるのは、学校側も大変だと思いますが、公立園の子どもさんだけでなく、私立園の子どもさんも同じように小学校に通われるのですから、そういう意味でそうした強いご要望があるということ踏まえて、できるだけ私立こども園との交流活動も進めていただきますよう要望としてお伝えします。

(こども未来課長の回答) ありがとうございます。私も過去にどのような諸事情があったのかは分かりませんが、現在私立園とは交流が実施できていないということで、

ゼロからのスタートで園により意識の差もありますから、まずできるところから進めていきたいと考えております。

- ・前にも一度小学校へ打診されたそうですが、まあもちろんいろいろな事業があったのだと思いますが、ちょっとなかなか受け入れていただけないような様子だったということです。今後、令和7年度までに全こども園で実施するようなシミュレーションになっていますので、コロナの関係もありますが、できるだけそういうお声かけをしていただいて、学校と調整していただきたいなと思います。

(学校教育課長の回答) 今年、学校教育課と子ども未来課では、幼小連携を進めるため春先から協議を行っています。ただ、小中連携とは違い、こども園の入園は居住地にひもづいていないため、特に私立園との交流をどう行っていくかという枠組みの問題もあり、知恵を出さないといけないということで協議を続けています。例えば北条東小学校区には2か所の私立園があります。全ての私立園の子どもたちが北条東小学校と交流するとなると、保護者の中には自分の居住地の小学校と交流してほしいと求める方や、私立園が同じ校区の小学校1年生と連携することが数の関係で難しいこともあります。それで、どういう枠組みで交流を持って行くかということで協議が必要になっています。

どうしたらできるかという方法を考えているので、まずは公立園の子どもたちに居住地の進学する小学校との連携事業を先に始めてもらっていました。しかし、今年も泉中学校区において、就学前の健康診断において私立園も受け入れて連携事業を行っていただいたようなこともあり、どういうことができるか考えてやり始めているところです。本当に教育委員さんのおっしゃることはとてもよく分かっており、何とか小学校のほうも今度入ってくる子どもたちを受け入れていけるように、子ども未来課と一緒に考えていきたいと思っています。

- ・私立こども園はいろいろな地区から子どもたちが集まっているので、もちろん自分が進学する小学校に行けることがベストではありますが、その辺は柔軟に考えていただけたらと思います。というのも、小学校の建物や場所は違っていても、いわゆる加西市の制度としてはどの小学校も共通のものがありますので、例えば下里小に行くけれども北条東小へ見学に行ったというのも、子どもにとっては一つのプラスになると思います。

(学校教育課長の回答) 教育委員のおっしゃるとおりです。ただ、その辺も考えながらマッチングさせようとするのですが、交流する園児と児童の人数が合わないなどの課題があります。でも、そこを何とかやっていきたいと思っています。ありがとうございます。

## こども未来課長

まず、令和5年度施設入所申込状況について報告します。先月定例会では、新規申込みの状況を報告したところですが、今回は令和5年4月1日の全体の申込状況を報告いたします。来年の予定ではゼロ歳児は75名、1歳児は138名になります。それから、今のゼロ歳児が来年度1歳児に上がるということで、現状と新しい申込分とで資料では二段書きに分けています。そして、2歳児は189名、3歳児は243名、4歳児は266名、5歳児265名で合計数1,176名です。ちなみに昨年の1,241名から65名減となっています。3から5歳児全体で77名の大幅な減となっています。ただし、無償化の効果といいますか、ゼロから2歳児についてはプラス12名の増となっています。テレビでもいろいろとありましたが、とにかくゼロ歳児3人に対し1人、1歳児6人に対し1人の先生が必要となる一方、3から5歳児は先生1人でいける規模ですので、ゼロから2歳児が増えるほど先生も必要になってくるという状況です。

次に、北条町小規模保育所（仮称）・中野町小規模保育所（仮称）の設置認可について報告します。小規模保育所の開園については昨年から進めており、これまでの経緯として記載しています。北条地区と九会地区ともに優先交渉決定権者としてPRAISEさんがお申込みをされ、昨年3月31日に運営法人を決定しました。そして、11月10日に審査会を開きました。今後のスケジュールについては、年明けに認可交付、2月に園児募集の開始、そして4月1日に2園とも開園予定でございます。

具体的に北条町小規模保育所（仮称）については、小規模保育所A型とあり、これは保育士の数でA、B、C型と分けられていて、Aは全員が保育士の保育所になります。連携施設は、無量会に民営化された北条東すみれこども園と契約されております。定員は、開園当初は12名を受け入れ、順次、最大19名まで増やすということで進めています。開園時間については、最大平日土日ともに7時から19時までにしております。食事は外部搬入で、調理は中野小規模保育所の1か所に集中させ、そこから配送して提供します。場所はアステリアかさいに開設予定です。職員関係については、専従は最低5名必要ですので、5名の確保をされております。兼務の職員は、運営法人が同時に運営している「アスモ」職員との兼務で応援体制を組まれます。嘱託医は、医師と歯科医師で2名兼務です。まだ保育士の確保の最終確認ができていないところですので、職員の平均年数は空白としています。

また、中野町小規模保育所（仮称）についても、内容は同じとなります。こちらも賃貸テナントとして入居します。場所はマックスバリュの裏のみのりクリニックさん隣接地に建設途中となります。定員は12名、最大開所時間も7時から19時です。食事は自園調理で、栄養士も在籍し調理に当たる予定です。職員については、こちらも常勤5名、非常勤2名の7名体制で保育を実施されます。以下は同じになります。

最後に、令和5年度学童入園申込状況について報告します。本年度の申込状況は421

名のうち低学年は357名です。昨年は総合計465名のうち低学年は390名でしたので、こちらでも少し減少しています。北条第一と第二を合わせて昨年の84名から66名、九会が67名から56名、日吉が27名から19名、西在田が26名から15名で、大きく減少したのはこの4園になります。今年もできるだけ保留児童や待機児童がないよう、来年度の学童に向けて努力していきたいと思います。

#### 教育委員からの意見や質問とこども未来課長の回答

- ・小規模保育園の設置者は PRAISE 株式会社とありますが、この会社はどういった実績を持っておられるのですか。

(回答) 実績としては、明石や西宮のほうで学童保育園や小規模保育園をしておられます。そもそもは認定こども園や保育所等の支援事業、いわゆるコンサルト事業をメインでされていた会社です。たまたま加西市に進出活動をされ、縁かどうか分かりませんが加西市に申し込まれました。

- ・許可にはこの会社がいいなというふうな何か決め手になったものがあるのですか。

(回答) 許可と言っても結局こちらの事業者からしか申込みがありませんでした。昨年時点では2社の申込みがあり、両方から申し込まれるのかと思っていましたが、もう1社からのお申込みはございませんでした。

- ・あまり聞いたことのない事業者だったので、大丈夫かなと少し心配しただけです。

(回答) 管理者ですが、北条町小規模園の園長である玉田さんは元学校の校長先生でこの辺の方です。そして、中野町小規模園の園長である高田さんも小学校の校長先生で、南隣接地の教育委員会に在籍された方というふうな略歴を聞いております。

- ・分かりました。不安なような気はしますが、やってみないと分かりませんね。

(回答) 昨今メディアでいろいろありますが、十分指導はしてまいりたいと思います。

- ・少しお聞きしたいのですが、毎回こども園の数を見ながら今さら聞くのもなんですが、三つ子の魂百までと言って、できたら3歳までは子どもは手元で見てあげたいなと私も思っています。一般企業にお勤めの方は1年から1年半の育休がいただけますが、どうして親御さんはこれだけたくさんゼロ歳児をこども園に入れられるのでしょうか。何かいろいろとご都合があるのでしょうか、聞かせていただける範囲でどういうご事情で入れられるのか教えていただけますか。

(回答) ゼロ歳児の申込みは今年度76名、来年度75名ということで、大きく変わった状況はありません。実態を聞いておりますと、我々の世代のおじいさんおばあさ

んになる方はやはり 60 代や 70 代でも働いておられて、なかなかお孫さんの育児をする環境ではないということです。また、聞いた話で申し訳ないのですが、実態として若いご夫婦もなかなかおじいさんおばあさんに預けたがらないのか分かりませんが、生活習慣の変化でしようけれども、収入がある程度欲しいということで早くから預けられる方が多い傾向にあると感じております。

- ・一般企業にお勤めの方は育休が当たり前ですから、ゼロ歳児を入れている親御さんはそういう企業にお勤めではないということですか。

(回答) そういう制度があるとしても、今は皆さんが 100%育休を取れるというわけでもございません。実際は 1 年育休を取るなら、退職される方のほうが多いという実態があると思います。育休を取ると、社会保険から育休の補助があるとは思いますが、実態はその間、社員が 1 名欠員になってしまうと聞いております。

- ・育休の制度は守られていないのでしょうか。

(回答) 守られないのかどうなのかは分かりませんが。

- ・アルバイトは難しいかもしれませんが、パートさんも育休は取れると思いますし、そここのところは働く女性としての権利を守ってあげたいと思います。お産の後はお母さんも大変ですし、お子さんも 1 歳にもならないうちに預けてしまうのは忍びないですね。

(回答) 一方で、若年夫婦だけで子どもの育児をされるといろいろな養育の問題が出てくるので、早く入園を促すほうが子どものためにもいいという意見も中にはございます。どちらがいいのかはなかなか難しいところですけど。

- ・今度、受け入れる側のお話ですが、小規模保育園が二つ増えて、保育士の定員はそれぞれ常勤 5 名、兼務 2 名ということで、部長の報告でも保育士の確保のため補正を組んでいるということで、本当に保育士は取り合いの状況だと思います。加西市は子育てにやさしいまちとしてアピールしている以上、安全安心な保育というのはとても大事なことです。それで、保育士確保のほうも十分によろしくお願ひしたいと思っています。

- ・学童の申込状況についてですが、11 月 25 日の一次締切りの表を見せていただいています。毎年のように質問させていただいて申し訳ないのですが、実際に申込者が定員よりオーバーしているところで、北条第一、東、富合、泉などがあります。例年ご質問させていただくと、こういう場合は低学年を優先されると伺っていました。ただ、北条東では申込総合計が去年より 10 名減ったとはいえ、低学年の申込者数が

既に定員をオーバーしています。こういうオーバーしているところは待機児童になるのですか。それとも、何とか入れてしまうのでしょうか。

(回答) 東については、低学年の申込者が 64 名で、定員はもちろんありますが、施設の規模や部屋の余裕から言えば全員を入れられます。また、北条の申込者数は 76 名で、70 名程度は全員入れられると思います。

・ゆとりがあつて定員以上に許容があるということですね。それでは、今の申込みでは待機児童がまだ出ていないと解してよろしいのですか。

(回答) 最終的に 3 月末までに保護者がどう判断されるかです。取り下げされる方も多いので、70 名を切れば一番望ましいのではないかと考えております。

・学童の待機児童については、例えば隣の下里小とか別の学校が空いているからといって、学校の帰りにそちらに行ってくださいというわけにはなかなかいきません。それで、できるだけ待機児童の出ないように、特に低学年の子どもの保護者さんのご意向には沿える努力をいただけるよう、よろしく願いいたします。

(回答) はい。夏季学童の受入れについては、富田と富合の余裕教室が二つあるので、そちらも使って第二希望でも受け入れていけたらと思っています。

・夏季学童は親が送迎されるのですか。

(回答) そうです。

#### 教育委員会課長(未来型児童館担当)

まず、先週の金曜日、こまきこども未来館の視察については、参加していただきました教育委員の皆さん、どうもお疲れさまでした。ほとんどがバスによる移動時間となり、現地視察は 2 時間ぐらいしか時間が取れませんでした。今後計画していく未来型児童館に入れていく諸機能等について、事務局を含め共通認識がある程度図れたのではないかと考えています。

それでは、加西市未来型児童館整備基本構想策定業務の進捗状況について説明させていただきます。前回の定例教育委員会以後、3 回のワークショップを開催しました。まず 11 月 20 日に子どものいる保護者を対象に、参加者 16 名で第 1 回ワークショップを開催し、子育てにあたり感じている課題や未来型児童館に期待する役割や機能について話し合いました。12 月 3 日には、市内中高生を対象に参加者 18 名で第 2 回ワークショップを開催し、学びや学習に対する思いや課題、未来型児童館に期待する機能や空間の質について話し合いました。そして、昨日 12 月 18 日には、再度保護者を対象に参加者 15 名で第 3 回ワークショップを開催し、子どもたちが考える未来型児童館に期待する機能や空間の質に追記する形で、保護者の意見を出し合っていました。

昨日のワークショップについては取りまとめが出来ていませんでしたので、今日は第1回と第2回のワークショップで出された意見について説明させていただきます。

まず、子育てにあたって保護者が感じている課題について出た意見、子どもたちから遊びや学習に対する思い、課題について出た意見を表にまとめています。様々な意見が出されたので、遊び・スポーツ、学習、活動・交流、相談・支援、その他の五つに分類しました。様々な意見が出されましたが、赤字のところが保護者と中高生両方が共通して感じている課題です。例えばスポーツができる場所が不足している、自主学習をする場所が不足しているなどです。また、これは児童館の機能とは関係ありませんが、保護者も中高生ともに立地場所の検討に関して、交通の便が悪いことを課題にしています。

次に、未来型児童館に対する役割や機能について、保護者と中高生から出た意見をまとめており、こちらも保護者と子どもたちが共通して期待している施設や機能を赤字にしています。まず、遊び・スポーツでは、双方とも体育館、競技場、プールが欲しい、スケボーやボルダリング、eスポーツをしたいなどが挙げられます。学びについては、自習室や高スペックのパソコンルームが欲しいや、勉強を教えてもらいたい、農業を行ったり、動物と触れ合えたりするような体験学習がしたいなどが挙げられます。活動・交流の場については、防音の音楽室やキャンプ場、交流ができるような場があればといったような意見がありました。相談・支援については、進路を決めるためいろいろなことを相談できる場所が欲しいなどが挙げられます。

昨日の第3回ワークショップにおいては、相談・施設に関する施設機能について多くの意見が出されました。次回の定例教育委員会ではこの第3回目のワークショップでの意見を含め、市民が未来型児童館に求めている機能や施設を整理したものを説明させていただきたいと思っています。

#### 教育委員からの意見や質問と教育委員会課長(未来型児童館担当)の回答

- ・小牧に行かせていただいて向こうでも質問したことですけれども、向こうも中央児童館としての機能なのですが、やはり子ども未来館というコンセプトが非常に大事だという話をされていました。その中でいろいろな施設があるけれども、子どもたちが体験して新しいものを創り出すというところは、やはりいいなと思いました。これも強調されていたことですが、子どもたちが単に楽しく遊ぶ場所ではなく、あくまで児童館として指導者がいて、子どもたちの将来を見据えてきちんといろいろな助言や指導ができる施設であると言われていました。

そして、ワークショップでの意見にも書かれているように、子どもたちの今こんなものやあんなものが欲しいといういろいろな意見というのもとても大事です。子どものニーズがないものをこちらの大人の考えで造ったとしても、子どもたちが来

てくれないというのでは全然駄目なので、やはり子どもたちの意見を十分に聞いていただきたいと思います。それから、保護者の意見としては相談できる場ということで、小牧も子育て世代の包括支援センターがあつて、相談員さんや保健師さんがいてすぐそこで相談できることや、別の階には女性交流センター的などころもありました。それで、市内であちこちにあるものをできれば少し集められるものは集めて、できたら集約した上で、そこに子どもたちが行って本当にいろいろな学びができればと思います。

それにプラスして、ここでも話していたんですけれども、例えば高齢者が昔の遊びを教えてくれたり、将棋をしたりして子どもたちの相手になってくれたりということも含め、いろいろな世代が交流できる場にして、子どもたちが「おじいちゃんやと遊んだら楽しいな」と気づいてもらえるようなことも、この施設の一面になるかも分からないです。いろいろなニーズをつかむことは難しいですが、実物ができる前にしっかりと構想を練っていきたいなと思います。我々もいろいろな意見を言わせていただくかもしれませんが、まず市民の皆様の意見をできるだけ聞いていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

- ・追加といいますか、私の意見も少し言わせていただきます。先日は小牧までご同行させていただき、本当にありがとうございました。小牧の施設は商業施設と一緒に合体になっているといいますか、1階はスーパー、2階は日用品が売られているような建物を使いながら、2から4階までが未来型の子ども児童館として造られており、ゼロ歳から18歳まで成長に応じた児童館になっていました。ただ、18歳までではなく、シニアの方も一緒に参加できるように造られていました。

開館までには、加西市と同様に何度もワークショップで中高生等の意見を聞き、それを反映しながら未来館を造っていかれたと聞かせていただきました。加西市はそれに感化して全く同じものを建てるというわけではありませんが、やはり私たちはこういうことをしたいというコンセプトを土台にしっかり持って、教育長も言われましたが、「加西市にはこういうものがあるんだ」と市民が誇りに思えるようなよりよいものを、中高生やご父兄の方などいろいろな市民の方のご意見を聞きながら造っていただきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

- ・ワークショップでの意見をいろいろと見させていただきましたが、私の意見としては、中には公民館、また小中連携や小中連携でできるのではないかと内容がいろいろ混じっていると思います。先ほども教育長が言われていたように、その辺はどういうビジョンやオリジナリティーを持ってやっていくかということ考えていかなければならないのではないかと思います。それぞれとてもいい意見ですが、児童館だけではなく、何か公民館などでもできるような内容がいっぱい入っています。



この児童館は未来に向けてやっていかないといけないというのが私の感想ですので、頑張って未来館としてのアイデアを出していきましょう。

(教育長の回答) 今ある施設の中でももう少し強化すれば可能な意見も結構あると思いますので、機能的に役割分担できるところは他の施設でも役割分担をして、やはりどうしても未来型児童館でこれはやらなければならないということを精査しながら、複合的にやっていけばいいのではないかと考えています。

#### 図書館長

スマート図書館ネットワーク事業の進捗状況についてご報告いたします。

システム導入に係るハードウェア及びソフトウェアにつきましては、11月に納品され、現在、システム導入業者によって設定作業が行われています。これらのパソコン等は2月下旬に設定を終え、16の小中特別支援学校、総合教育センター、善防、北部、南部公民館の計20施設に配付いたします。学校図書館及び総合教育センター蔵書の電算化については、順調に進んでおり、予定どおり2月下旬に完了する予定です。電子図書館システムについては、総合教育センターとねひめカレッジさんのご協力を得て、購入する電子書籍の選定を進めているところです。併せて、加西市史や市指定文化財の住吉神社楠公訣子図絵馬のデジタルアーカイブ化も進めています。図書館システムと電子図書館システムは3月1日からシステム運用を開始する予定です。ただし、学校図書館システムのみ年度末ということもあり3月を試験運用期間とし、令和5年4月から本格運用を開始します。

#### 1.1 協議事項

なし

#### 1.2 教育委員の提案

なし

#### 1.3 今後の予定について

- ・令和5年第1回定例教育委員会 1月25日(水) 14:00～5F大会議室
- ・令和5年第2回定例教育委員会 2月22日(水) 14:00～5F大会議室

#### 1.4 その他

- ・私からは2点ばかりですが、まず前定例教育委員会で報告のあった女性団体が鶴野で行った消防イベントについてです。この前、加西消防団の深田団長と前団長さんにお会いしてお話する機会がありました。少し話がかけ離れてしまうのですが、今消防団ではいろいろな訓練が廃止になってきていまして、やはり何かの行事や防災

訓練などを地域と一緒にやっていきたいということで、加西市消防団でも地域防災のほうに力を入れていきたいと二人の団長さんがともにおっしゃっていました。大きなことと言えば防災フェスティバルなども踏まえて、消防団と地域の方、そして何せ小中学校の子どもさんを交えてやりたいとすごく言われていたので、できても来年になるとは思いますが、考えていかなければいけないと思いました。それで、加西市を挙げて地域防災に取り組まないといけないというようなこととお話させていただきました。

あともう1点は公民館まつりについてです。善防と中央の2か所の公民館まつりに行かせていただき、どうもいろいろとありがとうございました。なかなかの大盛況でよかったと思った半面、これはあくまでも感想ですが、これからは地域で公民館まつりをやっていかなければならないなと私は思いました。特に宇仁地区はそういうことにとっても力を入れておられるのが見受けられまして、善防まつりのときには、例えば小中学生のボランティアと一緒にあって祭りを盛り上げていました。

もう1点は発表会についてです。ある団体さんの発表ではたくさん人が見ているのに、別の団体さんの発表には集まっていないという差がありました。多分、登録者さんからすれば、発表する場ということでそれで満足しているのかもしれませんが、これから地域で盛り上げていこうというのなら、小中学校やこども園の子どもたちと舞台上がって、一緒に発表をするのもいいのではないかと思います。そうすることで、保護者や祖父母の方も子どもや孫が発表しているのでと来てくださることで、もちろん登録団体によっては中にはそれが難しい発表もあるかもしれませんが、やはり子どもと一緒に発表することでもっと盛り上がるのではないかと思います。

来年度からすぐには少し難しいかもしれませんが、そういった一工夫を交えることも踏まえてやっていただけたらいいのではないかというのが、2か所の公民館まつりを見せていただいた私の感想です。私の一つの感想として、また違った公民館まつりが見てみたいなと思っております。

(生涯学習課長の回答) ご意見を賜り、ありがとうございました。これまでとは違ったまつりを見てみたいというご意見もいただきました。今後それらについても考えていかないといけないと思っています。

ボランティアの件については、各公民館で取り組んでいただいております、例えば南部公民館では加西中の生徒さんと一緒に行い、生徒さんの発表も取り入れています。また、泉中についてはこの度新聞紙面で取り上げていただきましたが、もっと以前から、泉中の生徒さんたちに企画運営にも関わってもらい、準備、当日スタッフとしても協力していただいております。善防公民館では北条高校生や善防中学校生、校区内の小学生、特別支援学校生の方々にご協力いただきました。中央公民館でも北条高校生による司会進行などボランティアとしてご協力いただいております。

発表の面については、今は加西中も泉中もそれぞれ生徒さんたちだけで発表をされています。教育委員さんご提案の小中学生やこども園の子どもさんとの発表というのは今のところできていません。また、観覧者については、それぞれのグループが自分の出番でないときに他のグループの発表を見るというのが中心になっており、おっしゃるようにどうしても演目の順番等で、たくさんの方に見ていただける発表と残念ながら観覧者が少なくなる発表とばらつきが出てしまっていることは把握しています。

来年の公民館まつりに向けてはすぐ動いていかないといけない状況であり、12月の公民館連絡会でも今年の実省や、もう既に来年に向けての話も出ておりました。本日いただいたご意見やご提案は、公民館連絡会に諮りまして考えていくようにいたします。今回のご意見では、こども園や様々な学校等との連携が必要になってきますので、そうした関係機関にご協力をいただけるように、公民館としてどういうことをしていきたいと考えているのか等こちらの考えをお示していきつつ、取り組んでいきたいと思ひます。どうもありがとうございます。

- ・教職員の方にもお話しして、できるだけ子どもさんと地域の方のコラボでやっていただけたらなと思ひます。
  - ・北部公民館は公民館内でできないので、泉中学校の体育館でされていますね。生徒さんがみんなボランティアでいてくださって、吹奏楽体験もあり、とてもソフトな感じで、今までの公民館まつりよりいい雰囲気になっていると感じています。
  - ・私も感想ですが、特に北部公民館など、以前より中学生が運営に参加してくれますし、北条高校の生徒さんたちも来てくれています。この間、九会のペットボトルツリーを意気込んで立てていましたら、北条高校の生徒たちも来てくれました。生徒さんだと思ひて話していたのですが、何か話が合わないなと感じ尋ねると、北条高校の先生でした。そんなふうにして、小学生を呼んだりしても結構来てくださるようになってきました。今年の子どもまつりでは下里小の子どもたちも一つコーナーを設けるなど、そういう交流はどんどん進めていけるのではないかと思ひます。ですから、忙しいとは思ひますが、こういう交流は止めないようにしていったら、もっといろいろなことに発展していけるかと思ひます。
  - ・市を挙げての防災フェスティバルは、どこの自治体でもしていますし、加西でもやるべき大事なことだと思ひます。ただ女性団体のイベントと少し話して考えるべきではないかと思ひます。
- (教育長の回答) 今回は鶉野でされましたが、それまでは消防署とかでやっていただ

いていたようです。今年はかなり大きな規模かつオープンエアーで、大変であったとは思いますが、大変よいイベントでした。このテーマでは別に加西市防災安全安心のまちづくりとかそういうものもありますが、あれはただ表彰と講演だけですので、何かそういうことで大会でも開ければいいですね。担当の首長部局は危機管理課なので、そちらのほうへもっと言っていかないといけないかもしれないですね。

この会議録は、事務局員が作成したものであるが、真正であることを認め、ここに署名する。

令和4年12月19日

出席者

(出席者署名)